

県岐商のPDCAサイクルの構築について



岐阜県立岐阜商業高等学校 校長 古田 憲司

県岐商のPDCAサイクルの構築について

1 本校の概要

2 これまでの取組

- ①資格取得日本一を目指して(目指せスペシャリスト)
- ②実践的なビジネス教育の推進を目指して(SPH)

3 現在および今後の取組



1 本校の概要



創立116周年

校訓

不撓不屈

1 本校の概要

流通ビジネス科(4クラス)



会計科(2クラス)



ビジネス情報科(2クラス)



グローバルビジネス科(1クラス)



1 本校の概要

日本一を目指す教育方針



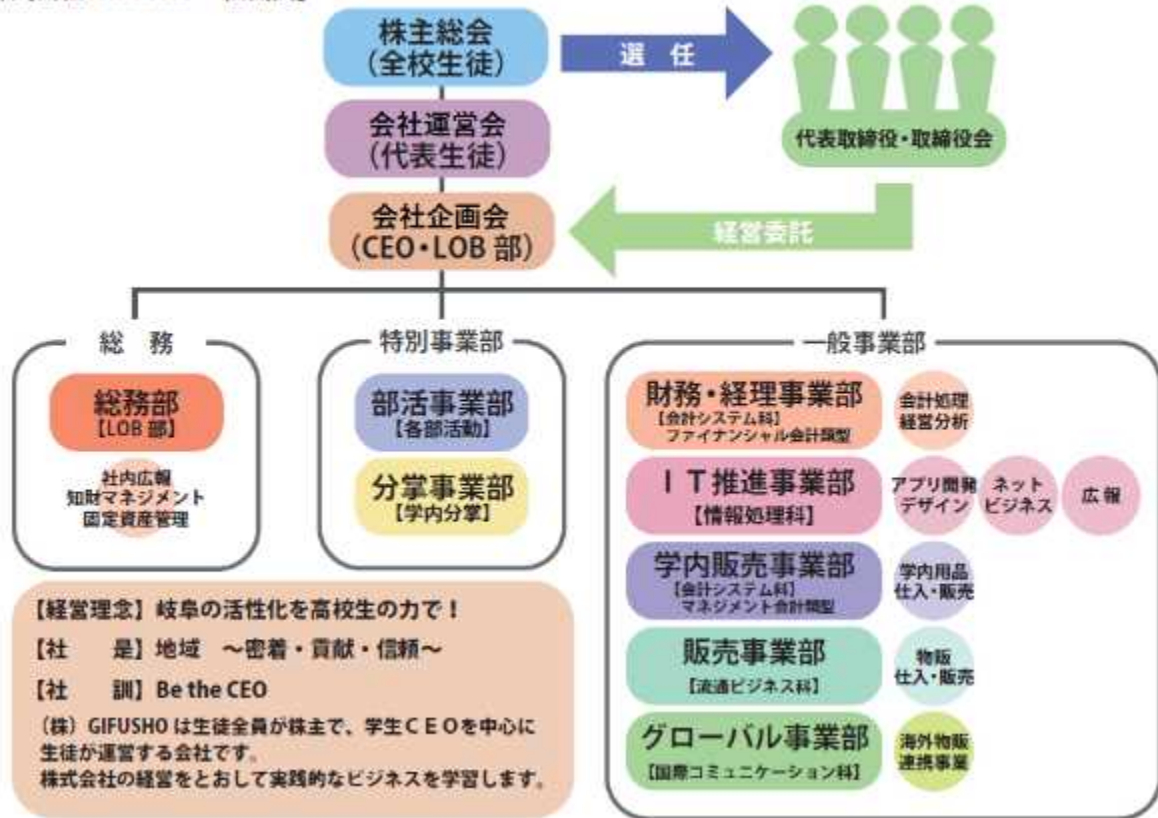
ビジネスマナー・人間教育

1 本校の概要 商業教育日本一

実践的なビジネス教育

株式会社GIFUSHOの運営

【株式会社 GIFUSHO 組織図】



資格取得日本一

経産省情報処理技術者試験

応用情報技術者 8人
 基本情報技術者 23人

日本商工会議所簿記検定

1 級 26人
 2 級 170人

税理士試験 科目合格者

簿記論 14人
 財務諸表論 4人
 (2019年)

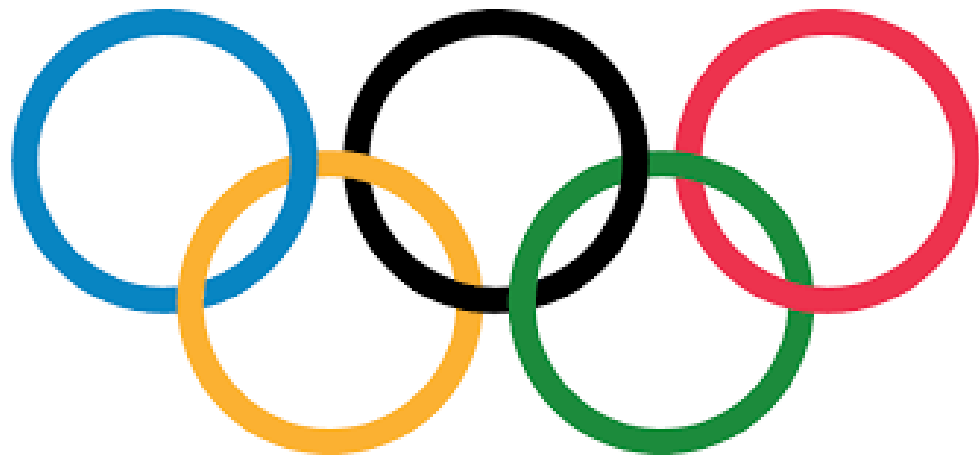
卒業生公認会計士論文式試験合格者

過去5年(2015～2019) 41人

1 本校の概要 **部活動日本一**

オリンピック

8大会連続9人輩出
(1988年～2016年)



シドニー五輪金メダリスト
高橋 尚子

1 本校の概要

部活動日本一

硬式野球部

春の選抜 29回

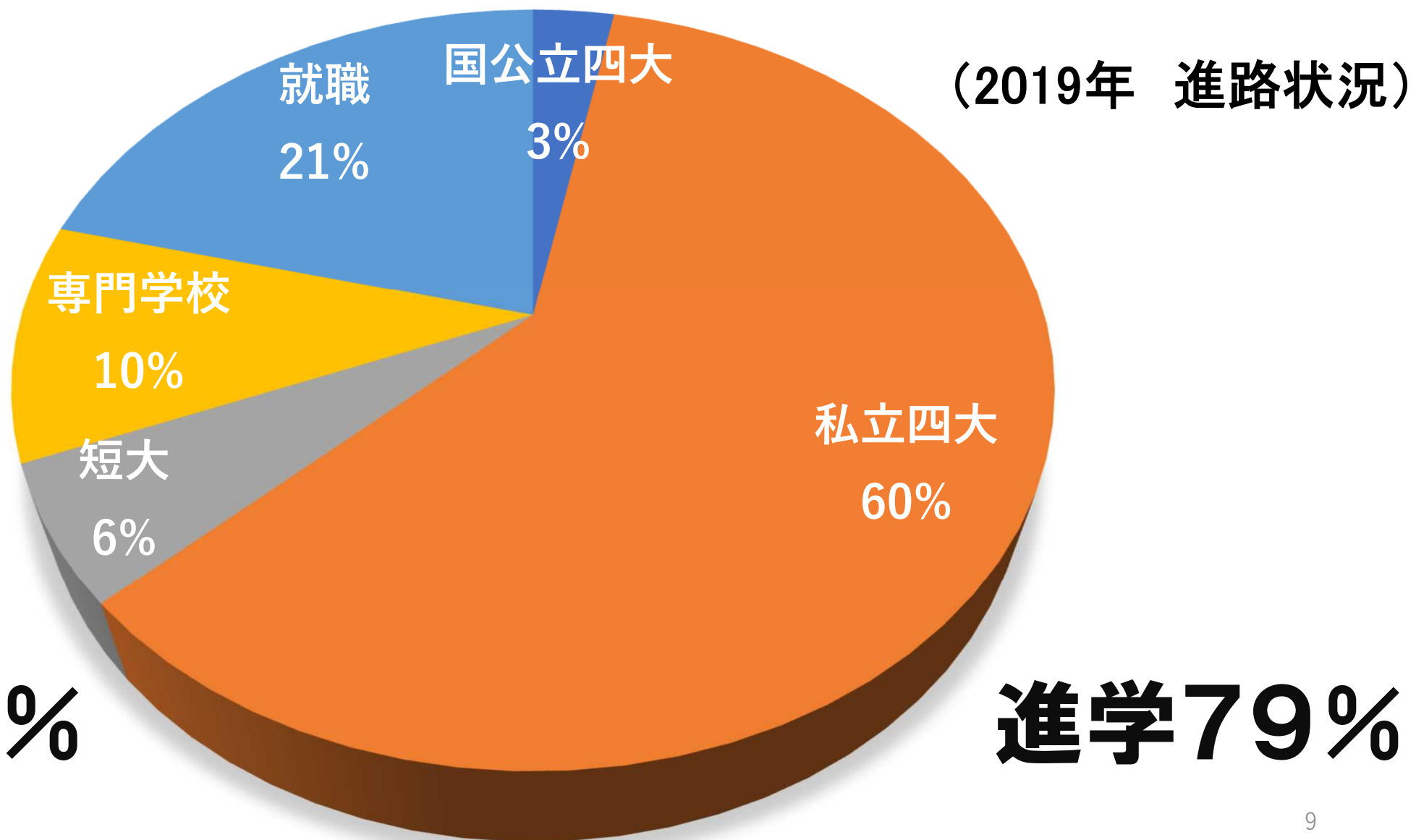
夏の甲子園 28回



全国大会**57回**出場！！

全国優勝**4回**

1 本校の概要 **進路達成日本一**



2 これまでの取組

①資格取得日本一を目指して

文部科学省「目指せスペシャリスト」 2003～2005

研究テーマ

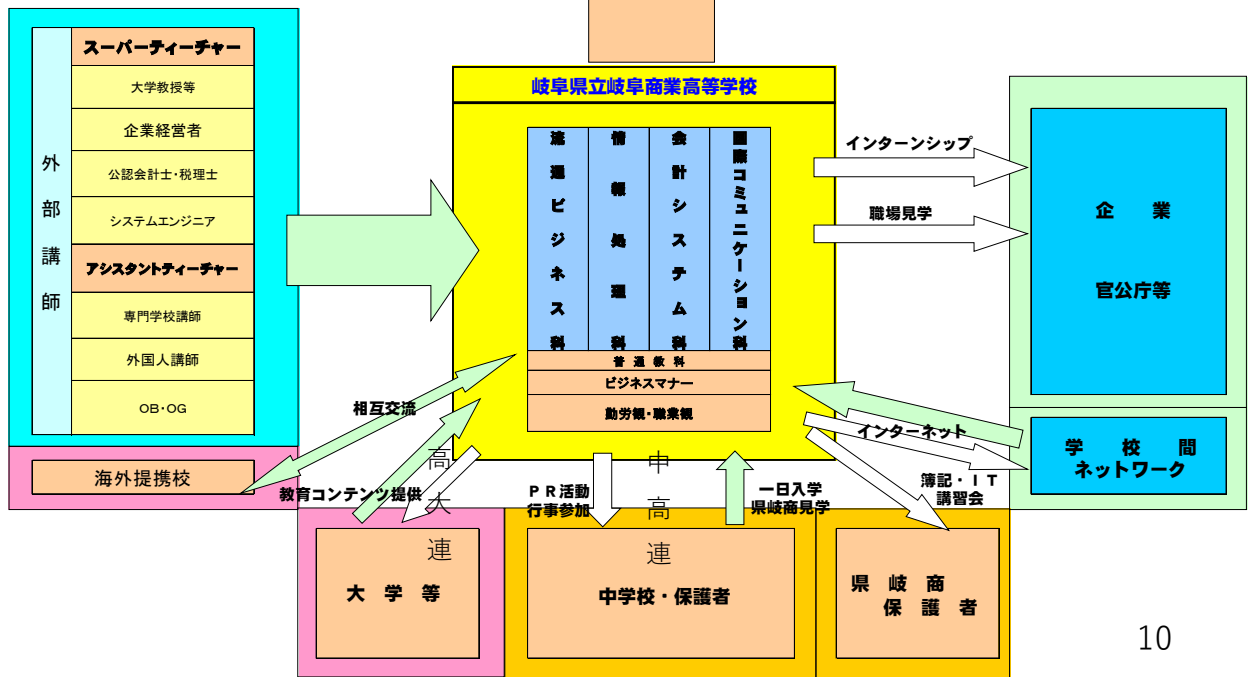
個に応じたより高度な資格取得をと
 して、経済・社会の変化に対応できる
 「生きる力」の育成を目指した商業高校
 (Super Business High School)
 のあり方

別紙様式1-2
12 研究のイメージ図

S. B. H. S 一県岐商一
Super Business High School

企業 就職		大学等 進学	
高度資格取得			
日商販売士1級	ソフトウェア開発技術者	公認会計士 短答式試験・税理士「簿記論」	実用英検準1級・TOEIC700点以上
日商販売士2級	基本情報技術者	日商簿記検定1級	実用英検2級
Super Marketing コース	Super IT コース	Super Accounting コース	Super Communication コース

スペシャリストになるための高度技能を早期に取得



2 これまでの取組 ①資格取得日本一を目指して

文部科学省「目指せスペシャリスト」の成果

- ・専門教科を学ぶ必要性を実感でき、学ぶ意欲が高まった
- ・取得した資格が実際のビジネスでどのように活用されるかを理解することができた
- ・社会人として、大事な資質や能力を体感することができた
- ・資格取得がゴールではなく、生涯学び続ける必要性が理解できた

	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009
ソフトウェア開発技術者	1	2	10	14	7	11	5	7
基本情報技術者	13	25	38	34	30	30	29	30
日商簿記検定1級	6	10	20	17	15	22	10	27
日商簿記検定2級	155	171	176	158	206	110	162	134
全経簿記検定上級	2	13	25	23	13	25	21	39
実用英語検定準1級	2	0	1	0	0	0	1	1
実用英語検定2級	29	15	15	19	26	17	24	29

2 これまでの取組 ①資格取得日本一を目指して

文部科学省「目指せスペシャリスト」後の課題

- ・資格取得が商業(学校)の目的となってしまった
- ・資格取得中心の授業となり、実践的・体験的授業の遅れ
- ・地域との連携が不十分



- ・商業に関する興味・関心の低下
- ・結果として 資格取得合格率の低下
- ・志願倍率の低下

- ・商業に関する興味・関心を高める授業
 - ・実践的・体験的授業
 - ・地域や外部との連携
- の必要性

2 これまでの取組

②実践的なビジネス教育の推進を目指して

文部科学省「SPH」 2014～2016



Creativity
創造力



Global Mind
グローバルマインド



Practical skills
主体的な実践力

会社設立・経営をとおして実践力・総合力・起業家精神を身につけ、グローバルに活躍するビジネスリーダー育成プログラム

Be the CEO Project



私立財団法人東京学院
インターナショナル
LOB

研究テーマ

会社設立・経営をとおして実践力・創造力・起業家精神を身に付け、グローバルに活躍するビジネスリーダー育成プログラム

机上だけでは終わらない商業教育を。

Be the CEO Project(「生徒全員が社長」という意味のもと、学校がひとつの巨大な総合会社「株式会社LOB(仮称)」として機能し、その中で学生が自由な発想を武器にビジネスを展開できる仕組みである。産官学の連携による生きた知識を得て、実際に企業経営を実践することで、商業教育の更なる専門性の深化を図る。

株式会社LOB(仮称)

学生が一定の資金を基に新規ビジネスを創ります。Be the CEOプロジェクトを通じて、複数の事業を担い、企業体として、教員、PTAにて運営(学生会設立は同窓会、PTAが行う)。

1初年度は従来の授業形態で事業を創出し、次年度以降はネット販売へとシフト

株式会社LOB(仮称)の主な活動内容

学生が展開する新規ビジネス

①会社経営
②商品開発・販売
③新規ビジネス展開

ネット販売の展開

各商品品のネット販売は、学内の「情報館資料」にて運営予定。
ソフイルレビジネス専攻とも密に連携し、東南アジア市場をはじめ、広い世界を元拠としています。

①自社アプリ開発・販売
②受託開発
③学内の販路開拓

iPhoneアプリ開発・販売

①自社アプリ開発・販売
②受託開発
③学内の販路開拓

アライエ工房

①LOBの広報、生徒の教員からの委託
②学内の受託

専攻学生の公認会計士によるコンサルティングサポート

ソフイルレビジネス専攻(韓国)との連携

- ①グローバルなシーンでのビジネスに必要知識を体系的に学習
- ②長距離移動を容易し、ショートステイによる長期滞在
- ③実地を中核とした実践的商業教育にも注力

2014年10月、日本での実地研修

県内外の大学、行政機関、民間企業との連携による強力なバックアップ体制

中央大学 商学部とのビジネス教育連携連携

中央大学

ビジネス分野全般における創発的商業教育を実施する。マーケティングや経営学、ビジネスに関する施設など、ビジネスに関する学術的知識を深めていく。

企業との協働による創造力のトレーニング

企業と協働での商品開発に参画することで、アイデアを形にする手法やスキルを体験し、市場のニーズに即したアイデアを創出する力を向上させます。

ビジネスプランコンテスト出場

岐阜県産工労働部との連携

県工業振興部の主催するイベントに参加をし、企業と協働で作業体験し、社会貢献しながら現場を学ぶ方法を体験。

高校生によるアイデアを提案できる場を設け、スマートフォン/PCの活用を体験できる機会を創出するなど、社会とのニーズ合ったスキルを習得するための場に積極的に参画。

農・工・商が連携した専門高校コラボレーション

農業やデザイン等のさまざまな専門領域との協働プロジェクトを実施し、新しいビジネスを創出するための想像力を高める機会を創出。

県内・岐阜工業部、岐阜県立高校、県外・岐阜県立岐阜商業学校、岐阜県立有田工業学校

2 これまでの取組 **②実践的なビジネス教育の推進を目指して**

文部科学省「SPH」の成果

- ・実践的・体験的な学習をとおして商業の学習に関する意欲が高まった
- ・会社経営をとおして資格取得（商業の基礎的な知識・技術）の必要性を認識し、合格率の向上
- ・地域や企業との連携が広がった
- ・志願倍率の向上

年度	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
倍率	1.03	1.13	1.18	0.99	1.15	1.15	1.18

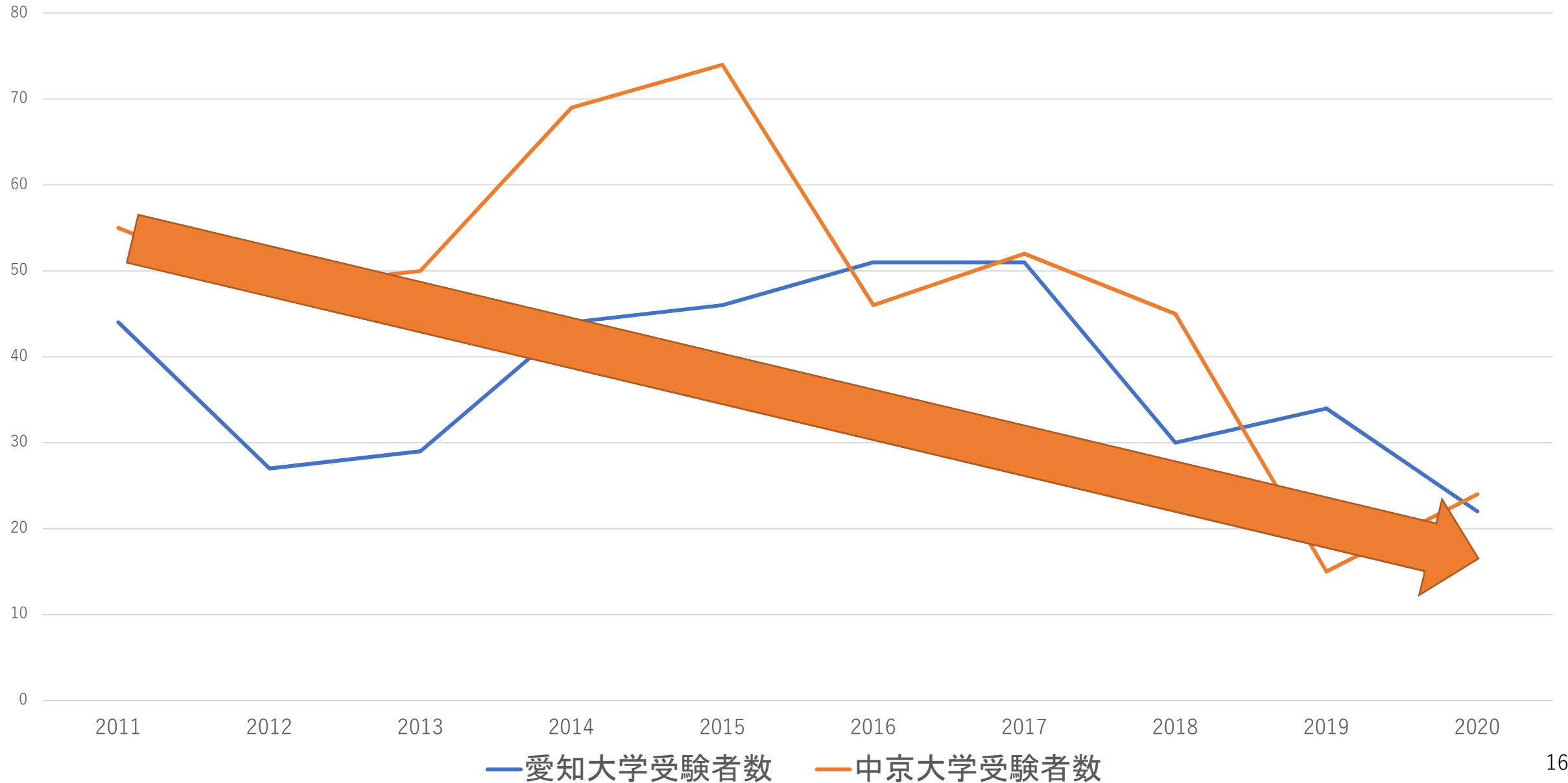
SPH

3 現在および今後の取組

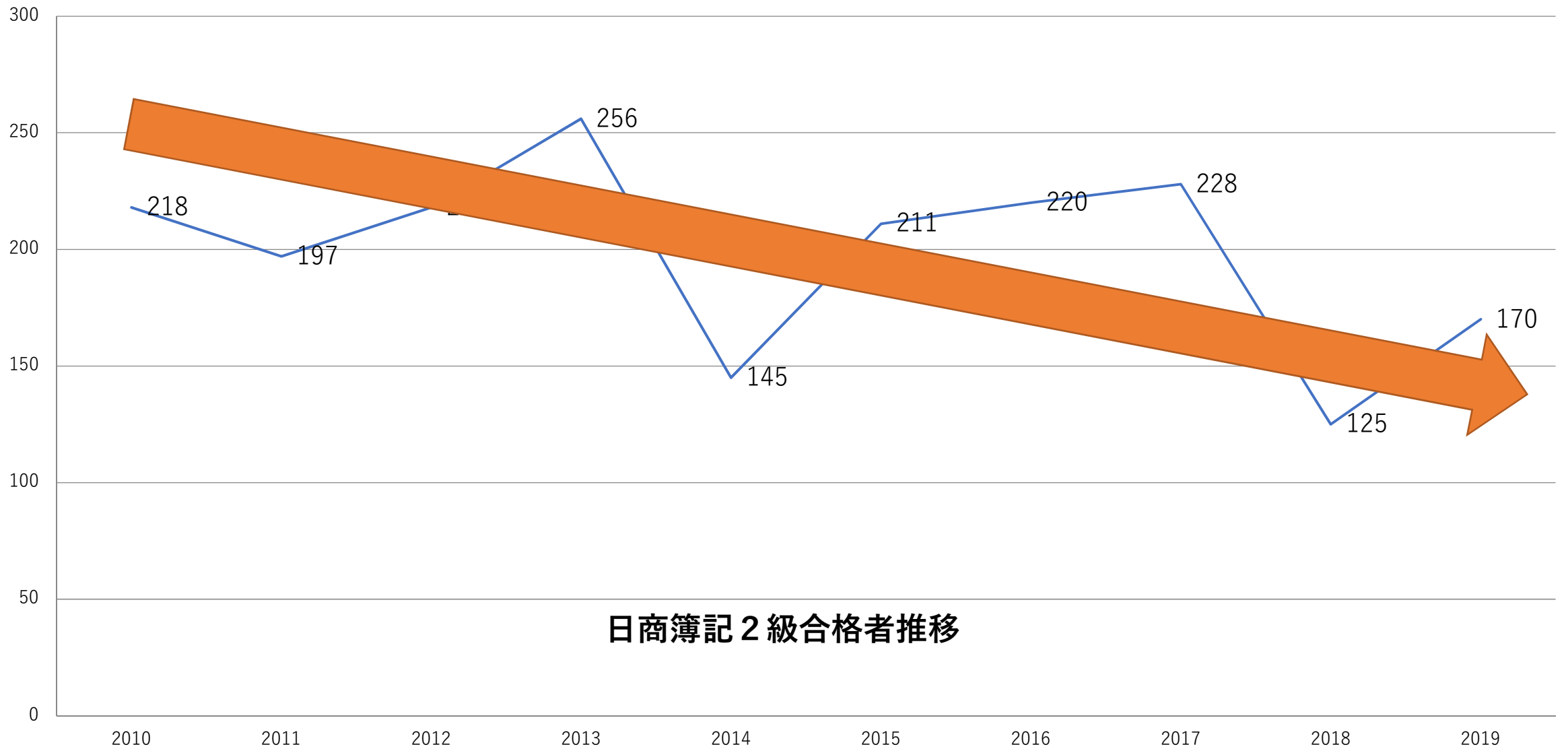
文部科学省「SPH」後の課題

- 1 「伝統」の名のもとに旧態依然とした校内の様子
必要を感じていない生徒にまで課される資格取得の目標
主体的に行動できない・・・言われたことはやるが自走できない
チャレンジ精神が乏しい・・・高みを目指さない
- 2 生徒も教員も多忙の中で振り返りができていない
定期考査と資格取得と公式戦
年次進行で家庭学習時間が減少
- 3 個々の教員の頑張りが全体に作用していない
商業教育や部活動の成果が波及しない

3 現在および今後の取組 文部科学省「SPH」後の課題



3 現在および今後の取組 文部科学省「SPH」後の課題



3 現在および今後の取組

PLAN 目標の設定

PLAN1 自分で考える力をつけさせたい

PLAN2 優先順位をはっきりさせて荷物をおろそう

PLAN3 教員のベクトルを整えよう

3 現在および今後の取組

DO 2019・2020年度の実践内容

PLAN1 自分で考える力をつけさせたい

- ・校則等ルールの緩和
- ・3年間のキャリア教育の見直し
- ・講師を招聘しての教員の意識改革
(2019: 荒瀬 克己氏、為末 大氏 2020: 佐藤 学氏)
- ・探究系の指名
- ・(株)GIFUSHOでの生徒主体のプロジェクト

3 現在および今後の取組

DO 2019・2020年度の実践内容

PLAN2 優先順位をはっきりさせて荷物をおろそう

前期中間考査の変更・日商簿記へのシフト

課題

- ・中間考査と部活動の大会の両立
- ・日商簿記検定2級の合格者数の減少
- ・検定試験の増加

実践

- ・中間考査を止め单元ごと小テストの実施(商業)
- ・全商検定試験の受験を止め日商簿記検定に1本化

一夜漬け丸暗記が無くなり、学力の定着
学習と部活動の両立の推進
日商簿記2級の学力の向上(現2年生)

3 現在および今後の取組

DO 2019・2020年度の実践内容

PLAN3

教員のベクトルを整えよう

教育方針・教育目標の改訂

「育てたい生徒像」の作成



3 現在および今後の取組

CHECK 2019・2020年度の実践の成果

PLAN1



我慢して見守
る教員の増加
(部活動)

PLAN1



「探究型授業」
の広がり

PLAN1



(株) GIFUSHO
主体的な取組
「将来の夢」
の変化
起業への志向

PLAN2



日商簿記検定
の結果
(学力向上)

PLAN2



学習時間の増加

PLAN3



職員研修での
活発な議論

3 現在および今後の取組

CHECK 2019・2020年度の実践の成果

PLAN1 自分で考える力をつけさせよう

「探究型授業」の広がり

- ・校務分掌に「探究係」を位置付け
「探究型授業」の司令塔
- ・1年生「ビジネス基礎」を探究型授業に変更
- ・商業のみならず共通教科への広がり

3 現在および今後の取組

CHECK 2019・2020年度の実践の成果

PLAN1 自分で考える力をつけさせよう

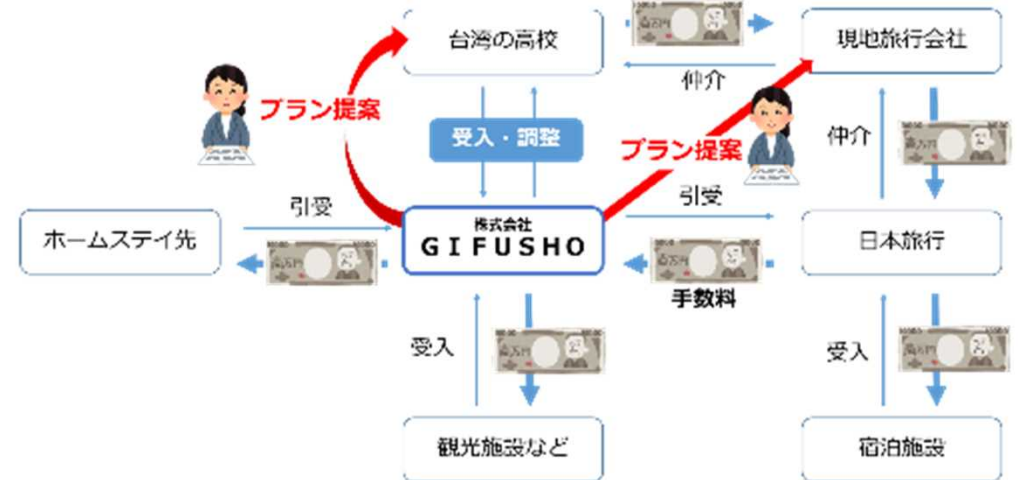
(株)GIFUSHOの新たな取り組み

台湾訪日教育旅行誘致 新事業開拓!!



企画

訪日教育旅行受入ビジネスモデル



3 現在および今後の取組

CHECK 2019・2020年度の実践の成果

PLAN1 自分で考える力をつけさせよう

商業達人カップでの活躍



3 現在および今後の取組

CHECK 2019・2020年度の実践の成果

PLAN1 自分で考える力をつけさせよう

商業の授業を受けるのは楽しいですか？(生徒アンケートより)

	2019年(1月)	2019年(9月)	2019年(12月)
3年生	71.5%	84.1%	89.0%
2年生	66.6%	70.2%	78.1%
1年生	58.9%	83.3%	83.6%

数値は「そう思う」「ややそう思う」の合計

※回答は4択「そう思う」「ややそう思う」「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」

3 現在および今後の取組

CHECK 2019・2020年度の実践の成果

PLAN2 優先順位をはっきりさせて荷物をおろそう

学習習慣の定着

(生活実態調査より)

	平日	2018	2019	2020
①	0分(勉強していない)	18.3%	17.2%	10.9%
②	15分~30分未満	54.4%	59.7%	27.4%
③	30分~60分未満	17.0%	16.6%	30.1%
④	60分~120分未満	9.2%	5.0%	20.8%
⑤	120分以上	1.2%	1.5%	10.8%

3 現在および今後の取組

ACTION 2021年度以降の目標

PLAN1 本校のキャリア教育のポンチ図作成
2021年度の講師招へい 佐藤学氏 5月
校内組織に学校改革部門(探究、ICT等)を創設

PLAN2 日商シフト3年目の成果、スポーツビジネスへの参入

PLAN3 本校としてのGP、CP、APの作成

ご清聴ありがとうございました

